

2011.8.24「最期の最後まで嘘をつく菅総理 この証拠を見よ」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。

今日は8月24日であります。昨日23日、財政金融委員会で公債特例法案が審議をされるということで、菅氏を迎えての質問がありまして、私も彼に対して質問したわけです。ここで質問した動画は私のウェブサイトの Showyou 動画のページにリンクが貼ってありますから、是非ご覧いただきたいと思います。

今回が彼と本当に最後の質問合戦になると思って、質問に臨みましたが、最後の最後まで嘘つきはどうしようもないのだなという印象を私は強く持ちました。この質問をする前に8月11日の予算委員会でも私は菅氏に質問致しました。その趣旨は菅氏の政治資金管理団体の草志会がいわゆる「政権交代を実現する市民の会」に合わせて6250万円寄付しているけれど、その寄付の元になっているのが、民主党から菅氏の草志会に流れた約1億2000万円で、その中から6250万円が菅氏の草志会を経由して、市民の会に流れているわけで、収支上赤字になるはずはないのです。ところが、そのお金を受け取ったという日と、寄付したという日を日付順に並べ替えてみると、帳簿上赤字になるのです。前回そのことを指摘して、何故そうなるのかということと、赤字になること自体あり得ないわけだから、つまりは虚偽の記載をしているのではないかと指摘をしたのです。菅総理は予算委員会では突然の指摘に訳が分かっていなかったようで「帳簿上何故、赤になったらいけないのか意味が分からないし、自

分自身は全て公開しているから、何も事実は隠していないのだ」と答弁されました。そして最後には「立て替えということもあるのだから、虚偽の報告をしたと断定しないでくれ」と仰り、「一度調べてみる」と答弁されたので、そのことを受けて昨日質問したのですが、それでもなお、全く出鱈目な答弁をされるのです。

先日私が出しました資料を PDF で上げていますから見て頂きたいのですが、ここに上がっている残高というのが 2900 万円余で繰越金額が 2900 万円です。これはおかしい話です。菅氏が提出している東京都の選管の収支報告に記載されている繰越金額が 1000 万円です。これも PDF にしてありますからご覧ください。彼は「こちらは 1000 万円になっているのに、西田さんが提出した資料では 2900 万円になっている、一体どこからその数字が出てくるのか意味がわかりません」と仰ったんですが、これが本当に分からないのであれば、大バカ者でありますし、むしろ菅氏はわざとボケたふりをして、質問に対するまともな答弁しないようにしたのだと思います。こちらは私がつくった帳簿ですが、ここにありますように、残高がもともと 1000 万円から始まっています。収支報告書には誰から寄付をいつ貰ったかということと、誰に寄付をしたのか、そのようなことが全部書いてあります。それを日付順に入れていきました。誰から献金を受けたか全て記録はありますが、プライバシー保護の観点から、ここには個人の名前を出していません。ですが、これを一つひとつ日付順並べていくと、すでに 2 ページ目の 3 月上旬からマイナス収支になっているということ

なのです。これも PDF に入っていますから皆様是非ご覧ください。つまりどういうことかということ、菅氏はこの問題に全く答えませんでした、私は確信をもって断言できますが、まさに彼は虚偽記載をしているということなのです。なぜそう言えるのか。菅氏は立て替えをしてもらっている可能性があるのではないかと仰いました。確かに立て替え金ということならば、赤字になることもあります。例えば、残高が 1 万円しかない時にコピーの修理が必要になって、修理代が 2 万円必要になったとします。しかし、残高は 1 万円しかないので事務員さんが自分のポケットから 1 万円を出して、立て替え、それから後で団体に寄付金などが入ってきて、残高がある時にその事務員さんに立て替えてもらった分を返す場合、こういう帳簿上どう書くかということ、実際今日 8 月 24 日にその集金があったとすると、払ったのは 24 日ですから、24 日の支出としてそのコピー代を出すわけですね。そうすると帳簿上の残高から 20000 円の残高が支出されるとマイナス 1 万円というようなケースが出ることもありうるんです。これは選管にも確認してそういう答弁をしてもらいましたがあるんです。しかし、あくまで立て替えというのはそういう風に、その団体の、内部の人間が、そういう立て替えをするようなケースを想定しているだけであって、多額の何百万円の金額を事務局の人間がどうやって立て替えるのか、これは出来るはずがないし、またそれが出来るのであれば、代表者である菅さん自身が、自分の懐の中に 600 万か 1000 万入っているか知りませんが、それを立て替えて、いわゆる市民の会に活動するのに使っていったら良いということなんで

しょうけれど、そもそも、何百万円ものお金を個人、内部の人間がもっているはずがないのです。そして、大事なポイントはこれも **PDF** で上げておきますが、要するにここにありますように、菅直人を応援する会という自分の団体にも 300 万円寄付しているのです。それでまた赤字が増えているのです。ということは自分が立て替えて払ったのだという説明をするにしても自分が立て替えたもので自分の団体にお金を払うなんてことはあり得ないことなんです。つまり、説明が矛盾してしまっているのです。そして、その巨額の立て替えをいったい誰がしたのか、この事を私は問うたわけですが、一切これには答弁しなかったわけです。答弁するとなるとそういう矛盾が明らかになる為、わざと分からないふりをしたのでしょう。

それからもう一つ、借入金という形で、処理することも可能です。借入金の場合には例えば 1000 万円を自分の他の団体から借り入れた、また、本人から借り入れたりしてお金を入れてやると、例えばこの場合でしたら、140 万円の残高の所に政権交代を目指す市民の会に 500 万円を寄付したから、350 万円程赤字になっているのですけれども、まさにこういった時に 1000 万円程菅さん自身が草志会に貸し付けをしたと、そしてその貸し付けをしたおかげで、この 500 万円とかの支払いができるようになった、そしてその後民主党から 3000 万円入金がありますから、このお金でまた入ってきた時に菅さんに返せばいいじゃないかということで、赤字にはならないわけです。そして借入金の残高も年末には載らないということなのです。しかしそのケースの場合でも、借入金

をした段階で借入金収入というのをこの政治団体の収入金として表示しなければならないという規則になっているんです。そして更に返済した時に借入金の返済という支出を収支報告に載せなければならないという仕組みになっているんです。これも選管の選挙部長がこういう答弁をして証明してくれています。ということはもし仮に借入金の記入漏れをしたということでしたら、そういう収入支出を書いていないわけですから、これもまた虚偽記載ということになります。

いずれに致しましても草志会が虚偽記載を行っているのは明明白白な事実なのです。問題はそのお金を誰が一体どうやって立て替えたか、また誰がどのお金を貸し付けたのか、そして、そもそも寄付とか言うのは本当に合っているのかということなんです。ということは何かと申しますと、要するに今、冒頭に言いましたようにもともと民主党から1億2000万円ほど菅さんの草志会にお金を入れることによって、その半分をいわゆる市民の会に寄付しているわけでありますから、寄付の方法がこの収入よりも先に出るということはありません。これが民主党の収支報告を見ましても、菅さんの草志会の収支報告書を見ましても、市民の会の収支報告を見ましても、それぞれ同じ日付で書いてあるわけです。ですから、それぞれ収入支出の日はそれぞれあっているでしょう。ところがその合っている日で入力して、こういう帳簿を作っていくと、マイナスになる。つまり実態はどうなのか、非常に疑わしいです。まさに実態は闇の中です。

これは小沢さんの政治資金報告が虚偽記載をしていると、私が2年前に指摘してきた内容と酷似しています。要するに小沢さんの陸山会が4億円の土地を取得する時に、借入金で入れて取得したという風にしたのだけれども、実際に借入れをした時と、それから土地を買った日が事実ではなかった、その事実の日でやっていくとお金はマイナスになる、これはおかしいじゃないかということを指摘したことを受けて、新聞社が当時の秘書をやっていた石川さんに色々お話を聞いてきたところ、小沢さんからお金を借りたのだけれども、小沢さんのお金だと分かったと困るのでわざと銀行から借入れしたのだという答弁が出てきました。しかしながら、その答弁も全体を考えると矛盾している部分があり、結局は虚偽記載であるということで石川被告は逮捕され現在は公判を受けているのです。そして菅さんの草志会の問題も小沢さんの問題と同じようになると私は確信をしています。

そして今日のビデオレターは様々な資料を添付していますので皆様方に拡散して頂きたいと思っています。また昨日の財政金融委員会や予算委員会の様子もご覧になって欲しいです。そして、菅さんがどれだけ出鱈目を言っているのかを認識して頂き、菅さん、あなたがやっていることは小沢さんと同じことであり、同じ体質の人間であるということを知って頂きたいです。また、菅さんは最後に「西田さんとは色々な論争があったが、出来たら政策論争がしたかった」と仰いました。もちろん、私も政策論争したかったのですが、政策を言っている本人が嘘つきであり、内容が出鱈目であつたら政策論争すら出来ない

のです。この政策論争の入口の段階である草志会などの問題を追及してきました。そして、財政金融委員会で最後に政策論争を少し行いました。公共事業投資がデフレ脱却の為に必要であるということを菅さんも私の意見を聞き、認めながら、結局は実行していないということなんです。やはり、この政策論争に致しましても言っていることと、やっていることが全く出鱈目であります。私も予算委員会を通して菅さんに数えきれない位の質問を行ってきましたが、この方は辞める間際になりましても嘘つきであり、出鱈目であるということを断言したいと思います。また、今後民主党の代表がどなたになろうが、多かれ少なかれ菅さん、小沢さん、鳩山さんと同じように自分の都合が良い時に適当なことを言って、都合が悪くなると前言を無視して翻し違うことを言い、言っていることと、やっていることが出鱈目になってくるのです。このことは、民主党の生まれつきの体質であると指摘したいと思います。そして、このことをしっかりと国民の皆様に訴えて、菅さんの後に誰が総理になろうと日本は救えないし、救うためには解散総選挙しかないと言言したいと思います。

御清聴ありがとうございました。